憲法守れ 若者街頭へ

「戦争法廃止」コール

東京・新宿 〝民主主義この手で〟

「戦争法は廃止」「憲法守れ」と訴えて宣伝をする青年たち＝3日、東京・新宿駅西口

若者憲法集会実行委が宣伝

69年前に日本国憲法が公布された3日夕、若者憲法集会実行委員会は東京・新宿駅前で、「戦争法廃止」「憲法守れ」と訴える街頭宣伝をおこないました。戦争法の廃止を求める2000万人署名やシールアンケートに取り組み、「戦争法制今すぐ廃止」「憲法無視する総理はいらない」とコールしました。

「憲法守れ」「WAR IS OVER」などと書かれたプラカードが並び、ステージの周りには、取り囲むように聴衆が集まります。若者が次つぎにスピーチしました。

実行委員会のメンバー、黒津和泉さんは「戦争のない未来をつくるためには、私たちが努力しないといけないと思います。日常の中で、私たちの手で、民主主義をつくっていきましょう」と訴えました。

「採決されてから、法律のことを知った」。アンケートで戦争法に「反対」のシールを貼ったのは、東京都世田谷区の高校1年生の男性（15）です。「自分で調べて、これはダメな法律だと思いました。廃止にするために僕も何かしたい」と語りました。

結婚式に参加するため東京に来たという、青森市の戸川雅子さん（62）は「戦争ができるような社会には絶対したくない。若い人に勇気をもらった。私も地元で声をあげ続けたい」と話しました。

京都 憲法集会に2800人

憲法違反の戦争法廃止を求めて、「憲法集会in京都」が3日、京都市東山区の円山音楽堂で開かれ、2800人以上が参加しました。主催は、憲法9条京都の会、京都96条の会。京都市役所前までデモ行進しました。

岡野八代・同志社大学教授が講演。岡野氏は、理性も知性も良心もない人の心臓を「安倍の心臓（晋三）」と称して批判。「民主主義とは一人ひとりが正しいとは何かを判断し、実現する政治体制だ。『安倍の心臓』のような人から民主主義を取り戻すには自分たちで判断する力を付けていくことが必要だ」と訴えました。

「ママの会@京都」の母親や若手弁護士ら6人が発言。シールズ関西の佐伯宗倍さんは「参院選に向けて力をたくわえている最中です。夏の運動で野党共闘が現実になりそうだ。政策を乗り超えて実施してほしい」と訴えました。

「自由と平和のための京大有志の会」発起人の小関隆・京大教授は「（安倍首相は）国民はいずれ支持するはずと言い放ち、私たちの心は誘導できるとタカをくくっている。心は人間の尊厳の中核だ。国家権力の心の操作を許せば私たちは駒にされてしまう」と強調。立命館学園有志の会の植松健一・立命大教授は「黙くだけでなく、街頭に出て姿を現していくことを心がけてきた。権力の横暴に防波堤の役割を果たしていきたい」と語りました。

日本共産党の穀田恵二衆院議員が来ひんあいさつしました。

実行委が運動交流

若者憲法集会実行委員会は3日、東京都内で「憲法にもとづく政治をつくる 若者×憲法MEETING」を開き、100人が集まって戦争法廃止に向けて各地の運動を交流しました。

主催者あいさつした日本民主青年同盟の小山農副委員長は「私たちとSEALDs（シールズ）が共同で行った渋谷デモが、全国の若者の行動を広げるきっかけになった。戦争法を廃止し、立憲主義を回復させることができれば、国民や若者の自信となり、新たな時代を切り開くことになる」と強調しました。

首都圏を中心に各地・各分野で戦争法案反対の運動に取り組んだ若者たちが報告しました。「県内主要都市の大宮、川越、浦和でデモをした」（VIP埼玉）、「戦争する国ではなく、憲法9条をいかした平和を広げる国を子どもたちに手渡したいと、無記名賛同を呼びかけた」（全国教職員投票）、「戦争法廃止に向けて学習会を企画している」（PAG、群馬）。

日本共産党の市田忠義副委員長が連帯あいさつで、「戦争法廃止の国民連合政府」の提案を説明し、「国民連合政府を実現すれば、国民の声で政治を動かす一大社挙になります。カギは若者の運動です」と語りました。

渡辺治一橋大学名誉教授が戦争法廃止の展望について講演しました。

戦争法に反対する高校生のグループ「T—ns Sowl(ティーンズ・ソウル)」が3日、東京都内で2回目の勉強会「政治って、民主主義ってナンダ？」を開きました。

「戦争法廃止に向けて長期のたたかいになる。自分が当事者として行動するために、学びとデモなどの活動、両方を大切にしたい」と企画。政治学者の木下ちがやさんと、ジャーナリストの志葉玲さんをゲストに招き、「自分にとって政治はなんなのか」を考えました。

木下さんは「仲間を集めて問題を解決する政治的な行動は、漫画や小説にも出てくるような普遍的なことです」と説明。「年齢は関係ない。おかしいことには声を上げましょう」と話しました。

「政治って何だ」

ティーンズ・ソウルが勉強会

志葉さんは、イラクなどの戦場で国際人道法が無視され、救急車や病院などが攻撃されてきたことを報告。「戦争法はこうしたアメリカの対テロ戦争にまきこまれにいく法だ。一方で日本国憲法を守ることは、日本だけでなく世界の平和にもつながる」と、現場から政治を考える大切さを語りました。

中野区の女子高校生＝3年生＝は「受験生なんだから」と親に反対されながらも参加。「世界中に問題を起こす戦争は、やっぱりしてはいけない。政治はおとなが考えるものだと思っていたけど、私たちこそ考えないといけないと実感した。友人と問題意識を共有したい」と話しました。

「戦争法はたちに廃止を」と書かれた横断幕を掲げて行進する参加者＝3日、京都市

11/4
五箇